

モンゴル経済概況 (2014 年 5 月)

2014 年 6 月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

海外調査部 中国北アジア課

本レポートに関する問い合わせ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）

海外調査部 中国北アジア課

〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32

TEL：03-3582-5181

E-mail：ORG@jetro.go.jp

【免責条項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

禁無断転載

アンケート返送先 FAX : 03-3582-5309
e-mail : ORG@jetro.go.jp
日本貿易振興機構 海外調査部 中国北アジア課宛



● ジェトロアンケート ●

調査タイトル：モンゴル経済概況（2014年5月）

今般、ジェトロでは、標記調査を実施いたしました。報告書をお読みになった感想について、是非アンケートにご協力をお願い致します。今後の調査テーマ選定などの参考にさせていただきます。

■質問1：今回、本報告書での内容について、どのように思われましたでしょうか？（○をひとつ）

4：役に立った 3：まあ役に立った 2：あまり役に立たなかった 1：役に立たなかった

■質問2：①使用用途、②上記のように判断された理由、③その他、本報告書に関するご感想をご記入下さい。

■質問3：今後のジェトロの調査テーマについてご希望等がございましたら、ご記入願います。

■お客様の会社名等をご記入ください。（任意記入）

ご所属	☐ 企業・団体	会社・団体名
	☐ 個人	部署名

※ご提供頂いたお客様の情報については、ジェトロ個人情報保護方針 (<http://www.jetro.go.jp/privacy/>) に基づき、適正に管理運用させていただきます。また、上記のアンケートにご記載いただいた内容については、ジェトロの事業活動の評価及び業務改善、事業フォローアップのために利用いたします。

～ご協力有難うございました～

＜ 目 次 ＞

1. 政治・外交動向	1
(1) 国内	1
①【閣議】第 13 回定例閣議	1
②【閣議】第 14 回定例閣議	1
③【閣議】第 16 回定例閣議	1
④【閣議】第 17 回定例閣議	2
(2) 外交・国際	3
①【中国】オドバル保健大臣が中国を公式訪問	3
②【米国】ヘーゲル国防長官がモンゴルを公式訪問	3
③【日本】太田昭宏国土交通大臣がモンゴルを公式訪問	3
④【エストニア】ボルド外務大臣がエストニアを公式訪問	3
2. 経済動向	4
(1) マクロ経済	4
①【GDP】2014 年の実質 GDP 成長率(速報値)は前年比 7.4%増	4
②【インフレ・CPI】4 月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比 12.3 ポイント上昇	4
③【マネーサプライ】M2は前年同月比 41.9%増	6
④【貸付残高】貸付残高は前年同期比 51.2%増、不良債権残高は同 98.5%増	7
⑤【金利】トゥグルク金利は前月比 1.3 ポイント上昇の 19.7%	9
⑥【財政収支】1～4 月の財政収支は 1,057 億トゥグルクの赤字	9
(2) 貿易・投資	10
①【貿易統計】1～4 月の貿易収支は 9,380 万ドルの赤字	10
②【為替】対ドル、対円ともにトゥグルク安	13
(3) 産業	14
①【輸送業】鉄道貨物輸送が前年同期比 3.4%減、航空貨物輸送が同 6.1%減	14
②【ホテル・外食産業】ホテル業は前年同期比 22.4%増収、外食業は同 1.9%増収	15
③【保険業】保険料収入は前年同期比 12.0%増	17
④【卸売・小売業】総売上高は前年同期比 0.2%増	18
3. 社会動向	19
①【保健・医療】伝染病感染者数は前年同期比 22.6%減	19
②【世帯収支】1世帯当たりの平均収入は前年同期比 6.1%増	20
2014 年 7 月～10 月の予定	22

1. 政治・外交動向

(1) 国内

①【閣議】第 13 回定例閣議

第 13 回定例閣議が 4 月 4 日に開催され、送電線・変電所への融資を承認した。

ウランバートル市の電力の安定供給を確保するため、ソングノ変電所、イヒ・トイログ環状送電線、MVA 変電所、バヤンゴル送電線・変電所などのプロジェクト実施に必要な不足財源を、進捗率、申し込み順により開発銀行が融資するよう、バトバヤル経済開発大臣に指示し、開発銀行の取締役会に許可した。

現在、上記プロジェクトの建設作業の進捗率は 60～70%であり、完成するとゲル地区の 5 万世帯を電気暖房でカバーできるようになり、これまでの石炭暖房によってもたらされてきた大気汚染の軽減に大きく貢献できる。

②【閣議】第 14 回定例閣議

第 14 回定例閣議が 4 月 12 日に開催され、下記の内容が審議されるとともに関係閣僚に指示が出された。

・ 2014 年度の特別用途の狩猟頭数を決定

特別用途のため 2014 年度に野生雄羊 28 頭、野生雄山羊 41 頭、鹿 20 頭、ハイイロオオカミ 20 頭、ノロジカ 10 頭、白カモシカ 200 頭を狩猟し、研究のためにハヤブサ 20 羽、イトウ 310 尾を捕獲し、調査後に戻すよう決定した。

狩猟管理計画により、2013 年度にスポーツハンティングおよび狩猟料金の 5 億 2,000 万トゥグルグが郡予算と国家予算に納入された。

狩猟管理を地方に移管する政策により、官民協力関係に基く動物保護活動の基盤が整えられた。

・ 国の備蓄から農家に小麦の種を販売

2014 年春の作付けのため、国の備蓄から農家に 5,940 トンの小麦の種を販売し、販売所得で 2014 年 12 月 1 日までに小麦の種を備蓄するよう、テルビシダグワ副首相に指示した。

③【閣議】第 16 回定例閣議

第 16 回定例閣議が 4 月 19 日に開催され、鉱物資源法修正法案を審議し、国会に上程することを決定した。

国内外からの投資環境改善の要望を受け、新しい法規則が出されているが、探査権益の新規発行が法で禁止されているため、地質探査への新規投資ができない状況にある。

鉱業分野への投資を復活させ、長期的な開発基盤を強固にする目的で、鉱業省が

鉱物資源法修正法案を作成した。鉱物資源法修正に関連し、同法施行規則修正案、鉱物資源探査権益新規発行禁止法廃止法案、特別保護地域法修正法案をそれぞれ審議し、閣僚の意見を反映して国会に上程すると決定した。

④【閣議】第 17 回定例閣議

第 17 回定例閣議が 4 月 26 日に開催され、下記の内容が審議されるとともに関係閣僚に指示が出された。

- ・アスガト銀鉱床採掘に向けてプロジェクト・ユニットを設立

外貨獲得と輸出品目の拡大のため、戦略的鉱山の一つであるアスガト銀鉱床の採掘に向けてプロジェクト・ユニットを鉱業省内に設立することを閣議決定した。

またアスガト銀鉱床採掘に関するフィージビリティスタディ、環境影響評価の作成を主導し、プロジェクト・ユニットを管轄して契約履行を管理するようガンホヤグ鉱業大臣に指示した。そして、必要な関連書類を提出することを国有財産委員会、モンゴルロスツヴェトメト社の幹部に指示した。

モンゴルロスツヴェトメト社は 2013 年第 2 四半期以降、ロシアが購入を止めたため売上が大きく減少し、蛍石の生産停止や金鉱床の採掘終了などで財務的困難に陥り、自力での銀採掘が不可能と鉱業省に報告していた。

- ・「工学系高等教育支援計画」の円借款協定を承認する法案を国会に上程

モンゴル政府と JICA の間で締結された「工学系高等教育支援計画」の円借款協定を承認する法案を国会に提出すると決定した。

(2) 外交・国際

①【中国】オドバル保健大臣が中国を公式訪問

4月2～4日、中国国家衛生計画生育委員会の李斌主任の招請によりオドバル保健大臣が中国を公式訪問した。

会談では、伝統的医学分野での経験を分かち合い、感染症共同調査を実施する提案が出された。また感染症予防活動の拡大、関係機関間の協力支援、感染症情報の交換、共同学会会議の開催、医師交流の支援で合意した。訪問中、保健大臣らは北京大学医学部や中国医科大学航空総医院など関係病院・医院を訪れ、事業を視察した。

②【米国】ヘーゲル国防長官がモンゴルを公式訪問

4月10日、モンゴルのバトエルデネ国防大臣の招請により、米国のヘーゲル国防長官がモンゴルを公式訪問した。訪問の際、「モンゴル・米国間の安全保障協力の方針」共同声明に調印した。またヘーゲル国防長官はアルタンホヤグ首相と会談し、両国関係、特に防衛・平和維持活動における協力を満足感を表明した。

③【日本】太田昭宏国土交通大臣がモンゴルを公式訪問

4月26～29日、日本の太田昭宏国土交通大臣を代表とする訪問団がモンゴルを公式訪問した。28日、ガンスフ道路運輸大臣と会談し、両国の道路・運輸および建設・都市計画分野における協力について意見交換し、協力覚書に調印した。太田国交大臣はフシグティーン・フンディーでの新国際空港の建設工事を視察し、プロジェクトが予定より早く進捗していることに満足感を表明した。また訪問団はアルタンホヤグ首相、オユンゲレル文化・スポーツ観光大臣と会談した。

④【エストニア】ボルド外務大臣がエストニアを公式訪問

4月28～30日、ボルド外務大臣がエストニアを訪問した。28～29日に首都タリンで開催されたフリーダム・オンライン連合の会合に出席した。会合ではオンライン上の自由化、安全な利用、課題、協力方針などについて加盟国の大臣や市民の代表者、ビジネス経営者らが意見交換した。

訪問中、ボルド外務大臣がエストニア共和国のイルヴェス大統領、ネストル国会議長を表敬し、パエト外務大臣と会談を行い、電子外交旅券所有者の査証免除協定に調印したほか、パロ経済産業大臣と会談し、両国および国際関係について意見交換した。

またボルド外務大臣は、タリン工科大学のメクトリー・イノベーション・ビジネスセンターを視察し、同時に開催されたモンゴル絵画展示会の開会式に参加した。

(出所：モンゴル政府官房、モンゴル国会、モンゴル外務省の各ウェブサイト)

2. 経済動向

(1) マクロ経済

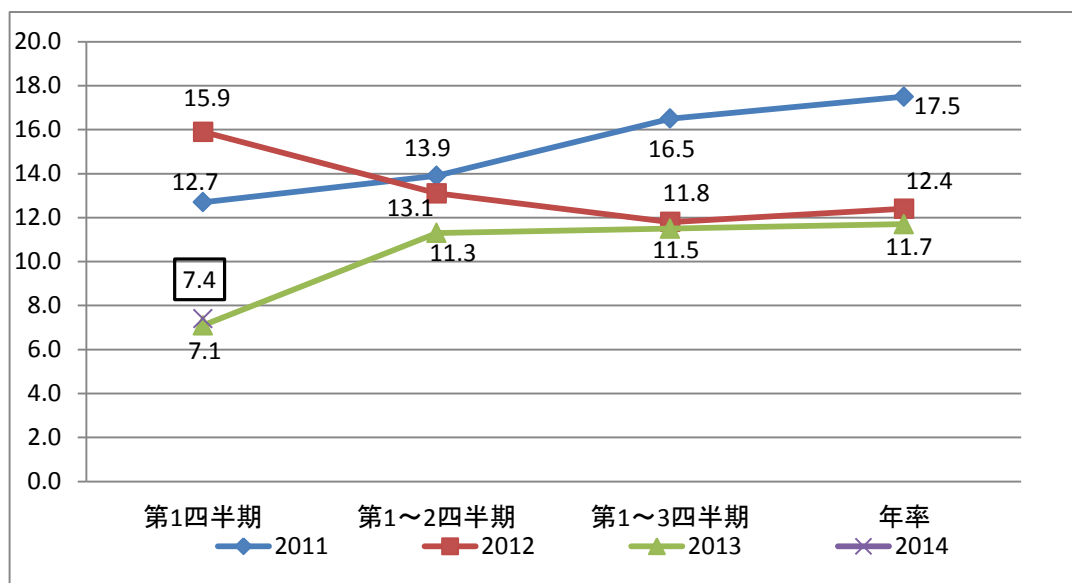
①【GDP】2014年第1四半期の実質 GDP 成長率(速報値)は前年同期比 7.4%増

2014年第1四半期の実質 GDP 成長率(速報値)は前年同期比 7.4%増、名目 GDP は 3 兆 7,536 億トウグルクだった(図 1 参照)。

実質 GDP 成長率を業種別にみると、農牧業が 18.4%、工業・建設業が 15.7%、それぞれ前年同期比で増加した。

(図 1) 実質 GDP 成長率の推移

(単位: %)



(注 1) 2014 年の成長率数値のみ枠線で表示

(注 2) 第 2 四半期以降の成長率は 1 月からの累計

(注 3) 2013 年(通年)と 2014 年第 1 四半期は速報値

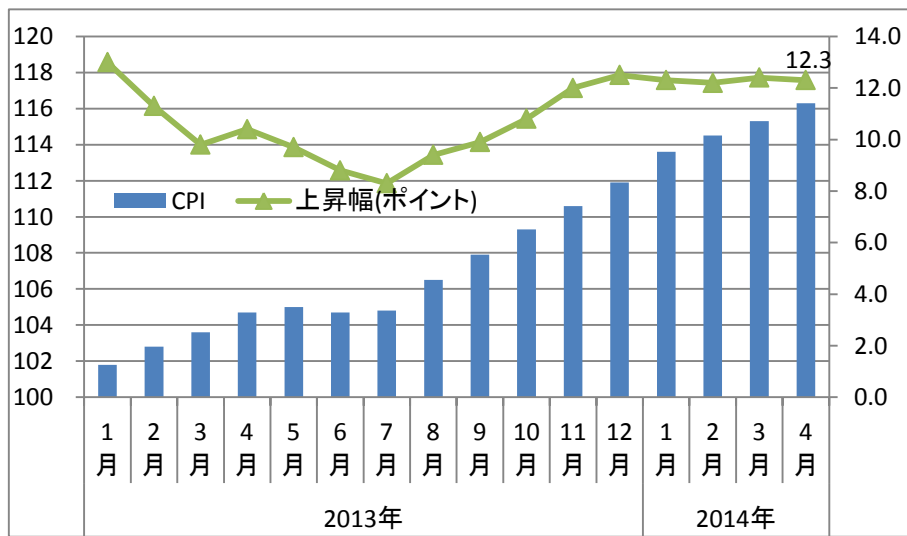
(出所) 国家統計局月報

②【インフレ・CPI】4 月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比 12.3 ポイント上昇

4 月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比で 12.3 ポイント(前月比では 1.0 ポイント)上昇した(図 2、表 1 参照)。

品目別では、教育が 27.2 ポイント、被服および履物が 19.3 ポイント、家具・日用品が 18.0 ポイント、アルコール・タバコが 15.7 ポイント、レストラン・ホテルが 14.6 ポイント、保健医療が 11.2 ポイント、住居・水道が 10.5 ポイント、食料品が 9.8 ポイント、交通・輸送が 4.4 ポイント、娯楽が 0.8 ポイント、その他の商品・サービスが 20.7 ポイントそれぞれ前年同月比で上昇した。一方、郵便・通信が 0.2 ポイント低下した(表 2 参照)。

(図2)消費者物価指数(CPI)の推移 (左軸:CPI、右軸:前年同月比上昇幅)



(出所) 国家統計局月報

(表 1)消費者物価指数(CPI)の推移

	2013 年								2014 年			
	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月
消費者 物価指数 (CPI)	105.0	104.7	104.8	106.5	107.9	109.3	110.6	111.9	113.6	114.5	115.3	116.3
前月比	0.3	-0.3	0.1	1.7	1.4	1.4	1.3	1.3	1.7	0.9	0.8	1.0
前年 同月比	9.7	8.8	8.3	9.4	9.9	10.8	12.0	12.5	12.3	12.2	12.4	12.3

(注1)消費者物価指数(CPI)は2013年初を100とする

(注2)前月比、前年同月比は上昇幅(ポイント)

(出所) 国家統計局月報

(表2)品目別の消費者物価指数(CPI)上昇幅 (単位:ポイント)

品目名	前年同月比		前月比	
	3 月	4 月	3 月	4 月
食料品	10.6	9.8	1.7	2.1
アルコール・タバコ	14.1	15.7	0.2	1.9
被服および履物	19.4	19.3	1.2	0.7
住居・水道	11.1	10.5	0.0	△0.3
家具・日用品	17.6	18.0	0.6	0.8
保健医療	11.3	11.2	0.1	0.2
交通・輸送	4.1	4.4	0.3	0.3
郵便・通信	△ 0.2	△ 0.2	0.0	0.0
娯楽	1.3	0.8	0.4	△0.2
教育	27.2	27.2	0.0	0.0
レストラン・ホテル	13.4	14.6	1.0	1.9
その他の商品・サービス	18.9	20.7	0.4	2.1

(出所)国家統計局月報

③【マネーサプライ】M2は前年同月比 41.9%増

4 月末時点の通貨供給量 (M2) は前年同月比 41.9%増 (前月比 2.8%増) の 10 兆 1,978 億トウグルクだった (表 3、図 3 参照)。

(表 3) マネーサプライの推移 (単位: 億トウグルク、%)

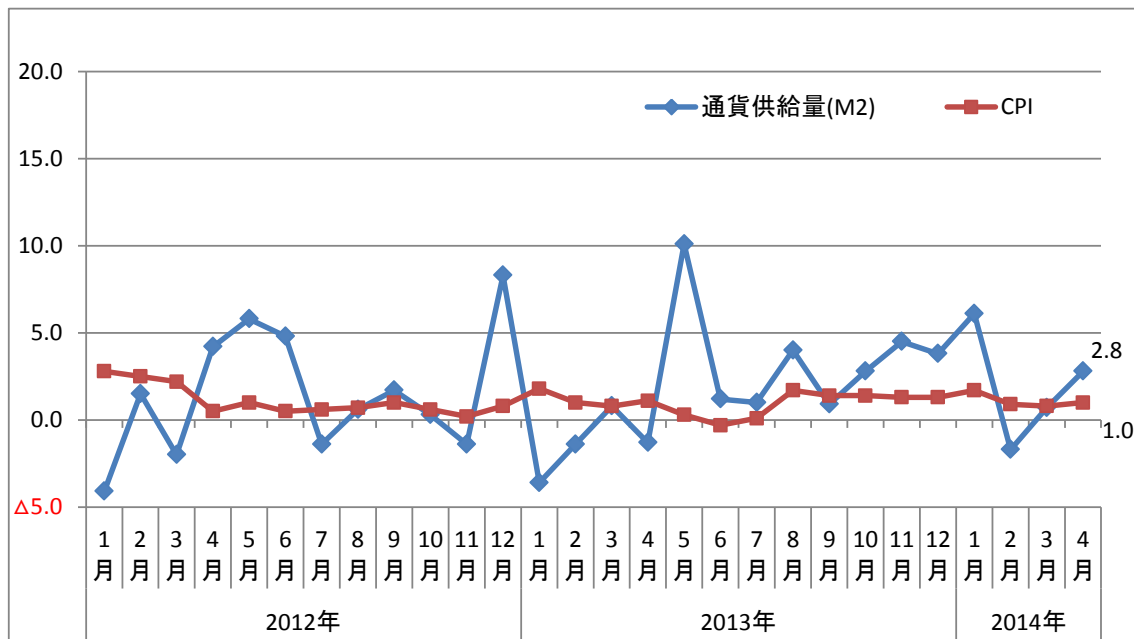
	2013 年 4 月	2014 年 3 月	2014 年 4 月
通貨供給量 (M2)	71,842	99,164	101,978
前年同期比	12.9	35.8	41.9
前月比	△1.6	0.7	2.8
総預金	46,992	71,604	71,928
前年同期比	18.0	46.5	53.1
前月比	△3.8	3.1	0.5
トウグルク預金	36,697	51,633	57,400
前年同期比	23.1	39.6	56.4
前月比	△0.8	5.0	11.2
外貨預金	10,295	19,971	14,528
前年同期比	3.0	68.2	41.1
前月比	△13.3	△1.3	△27.3

(出所)国家統計局月報

なお、総預金は前年同月比 53.1%増（前月比 0.5%増）の 7 兆 1,928 億トウグルク、トウグルク預金は前年同月比 56.4%増（前月比 11.2%増）の 5 兆 7,400 億トウグルク、外貨預金は前年同月比 41.1%増（前月比 27.3%減）の 1 兆 4,528 億トウグルクだった。

(図 3) 貨幣供給量(M2)と消費者物価指数(CPI)の前月比伸び率

(単位: %)



(出所) 国家統計局月報

④【貸付残高】貸付残高は前年同期比 51.2%増、不良債権残高は同 98.5%増

4 月末時点の貸付残高は前年同期比 51.2%増（前月比 3.1%増）の 11 兆 7,377 億トウグルクだった（表 4 参照）。

貸付先ごとにみると、民間セクターに 6 兆 3,886 億トウグルク（構成比 54.4%）、個人に 5 兆 2,454 億トウグルク（同 44.7%）、公的機関に 726 億トウグルク（同 0.6%）、金融機関に 251 億トウグルク（同 0.2%）、その他の機関に 60 億トウグルク（同 0.1%）がそれぞれ貸し出されている。

不良債権残高は、前年同期比 98.5%増（前月比 3.7%増）の 6,162 億トウグルクだった（図 4 参照）。不良債権比率は 5.2%と、前年同期比で 1.2 ポイント増加、前月比では変わらなかった。

期限超過債権残高は前年同期比 2.7 倍増（前月比 6.9%増）の 2,990 億トウグルクだった。期限超過債権比率は 2.5%と、前年同期比で 1.1 ポイント増加、前月比では変わらなかった。

なお、市中銀行の総資産は前年同期比 56.9%増（前月比 1.2%増）の 18 兆 3,898 億トウグルク、政府債務（チンギス国債、サムライ債、開発銀行債などの対外債務

は含まず）は前年同期比 2.3 倍増（前月比 3.2%増）の 2 兆 1,773 億トゥグルクだった。

（表 4）貸付残高の推移

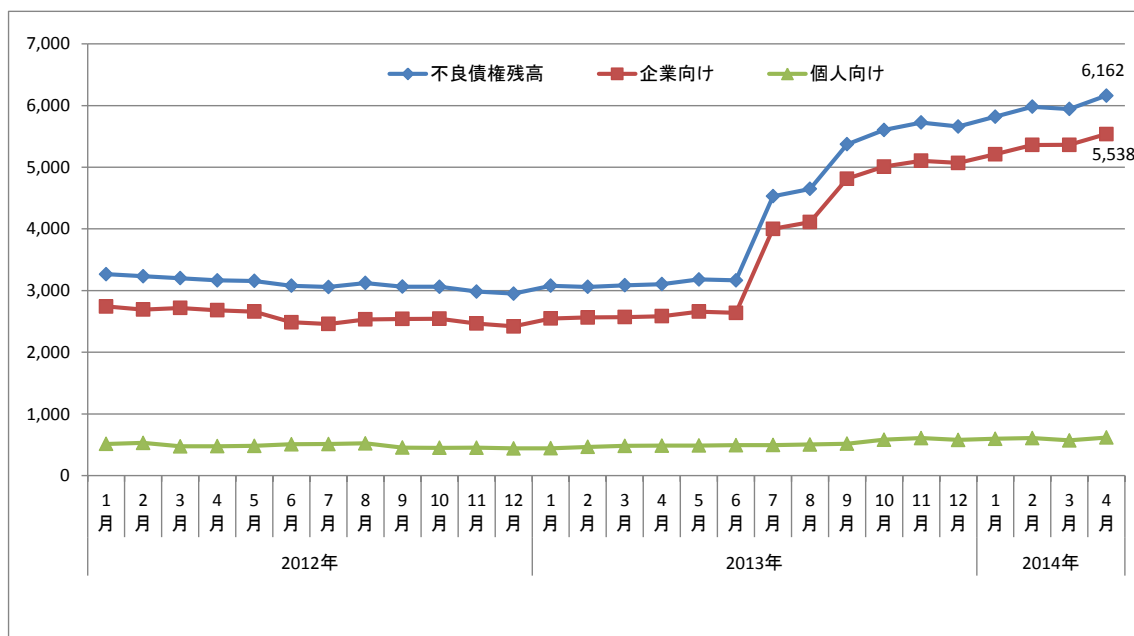
（単位：億トゥグルク、%）

	2013 年 4 月	2014 年 3 月	2014 年 4 月
貸付残高	77,640	113,809	117,377
前年同期比	30.8	54.1	51.2
前月比	5.2	2.0	3.1
不良債権残高	3,105	5,945	6,162
前年同期比	△1.9	92.6	98.5
前月比	0.6	△0.6	3.7
期限超過債権残高	1,109	2,796	2,990
前年同期比	55.8	179.9	169.6
前月比	11.0	40.6	6.9
不良債権比率	4.0	5.2	5.2
期限超過債権比率	1.4	2.5	2.5

（出所）国家統計局月報

（図 4）不良債権残高の推移

（単位：億トゥグルク）



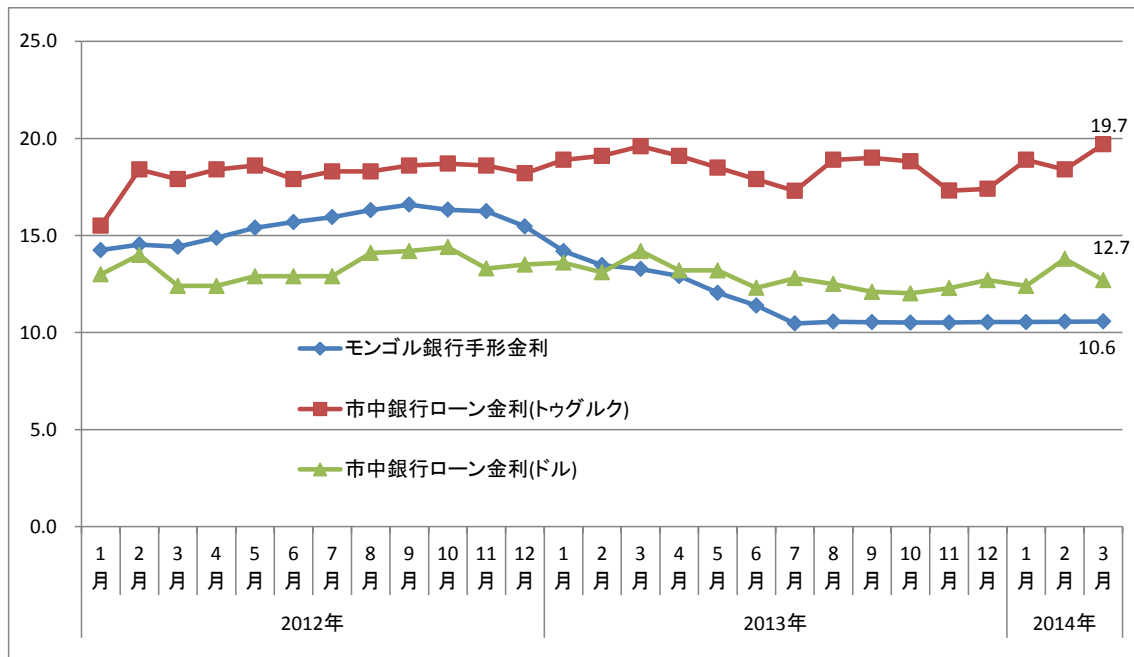
（出所）国家統計局月報

⑤【金利】トゥグルク金利は前月比 1.3 ポイント上昇の 19.7%

2014 年 3 月末時点の銀行ローン金利（年利）は、トゥグルクが前月比 1.3 ポイント上昇（前年同月比 0.1 ポイント上昇）の 19.7%、ドルは前月比 1.1 ポイント低下（前年同月比 1.5 ポイント低下）の 12.7%だった（図 5 参照）。

（図 5）銀行ローン金利の推移（年利）

（単位：％）



（出所）国家統計局月報

⑥【財政収支】1～4月の財政収支は 1,057 億トゥグルクの赤字

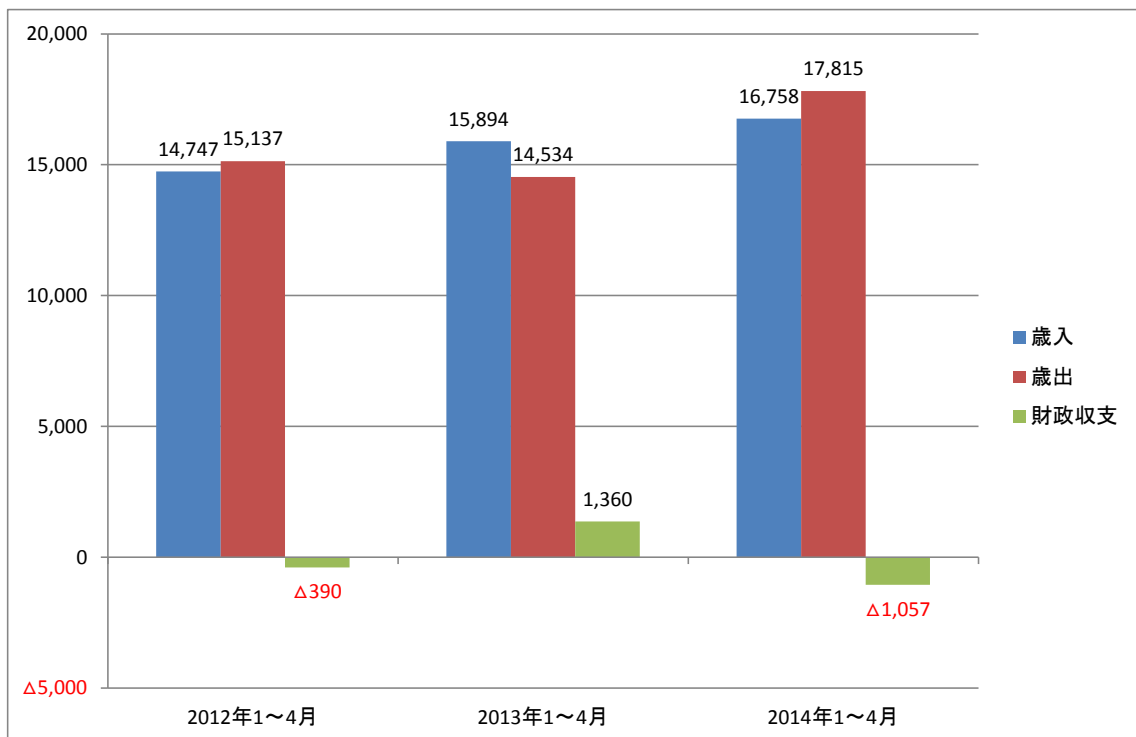
1～4 月の歳入および外国からの援助は前年同期比 5.4%増の 1 兆 6,758 億トゥグルク、歳出および返済は同 22.6%増の 1 兆 7,815 億トゥグルク、財政収支は 1,057 億トゥグルクの赤字だった（図 6 参照）。

歳入および外国からの援助の内訳をみると、税収が 85.2%（前年同期比 3.1 ポイント減）、税以外の収入が 13.9%（同 3.5 ポイント増）、財政安定化基金からの収入が 0.8%（同 0.4 ポイント減）を占めた。

歳出および返済の内訳をみると、経常支出が 89.8%（同 3.0 ポイント減）、資本支出が 9.9%（同 2.7 ポイント増）、返済が 0.3%（同 0.3 ポイント増）を占めた。

(図 6)財政収支の状況

(単位: 億トゥグルク)



(出所) 国家統計局月報

(2) 貿易・投資

①【貿易統計】1～4 月の貿易収支は 9,380 万ドルの赤字

1～4 月のモンゴルの貿易総額は前年同期比 0.2%増の 29 億 5,860 万ドル、うち輸出は同 18.1%増の 14 億 3,240 万ドル、輸入は同 12.3%減の 15 億 2,620 万ドルだった。貿易収支は 9,380 万ドルの赤字となった (図 7 参照)。

貿易相手先は 111 カ国・地域にのぼった。シェアをみると、中国が 58.4% (前年同期比 8.5 ポイント増)、ロシアが 16.0% (同 0.4 ポイント増)、その他が 25.6% (同 8.9 ポイント減) を占めた。

輸出相手先は 47 カ国・地域にのぼる。輸出総額に占めるシェアは、中国が 90.2%、英国が 6.5%、ロシアが 1.0%、イタリア、ドイツが各 0.4%、米国が 0.2%、その他が 1.2%だった (図 8 参照)。

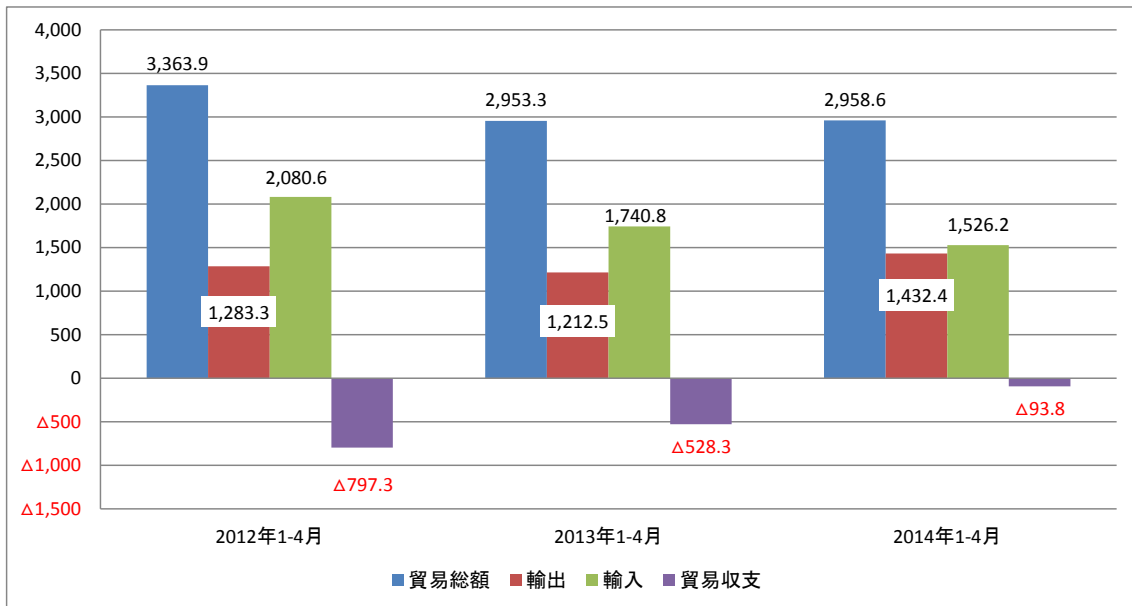
主要輸出品目は、鉱物製品、宝石・貴金属、テキスタイル、皮革・毛皮原料などで、これら 4 品目が輸出総額の 97.5%を占める (表 5 参照)。

このうち鉱物製品の内訳をみると、粗銅が 37.0% (前年同期比 14.2 ポイント増)、石炭が 19.0% (同 8.9 ポイント減)、原油が 14.5% (同 3.4 ポイント増)、鉄鉱石が 8.8% (同 9.6 ポイント減)、未精錬または半精錬の金が 6.3% (同 1.8 ポイント増)、亜鉛鉱石が 1.9% (同 2.0 ポイント減)、蛍石が 1.3% (同 0.4 ポイント減)、モリブ

デンが 0.7%（同 0.2 ポイント減）、その他の製品が 10.5%（同 1.7 ポイント増）となっている。なお、数量ベースの輸出量は表 6 に示した通りである。

（図 7）貿易額および貿易収支の推移

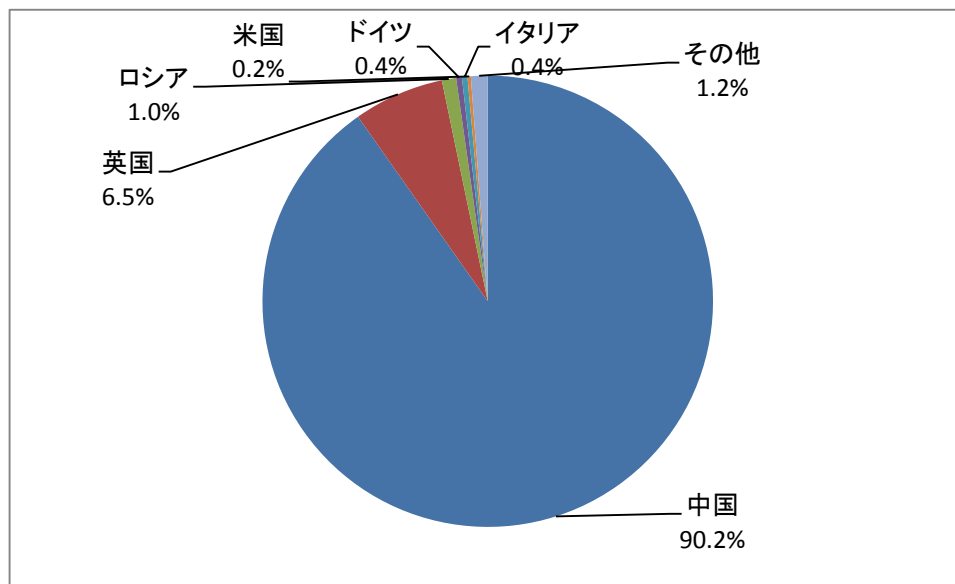
（単位：100 万ドル）



（出所）国家統計局月報

（図 8）輸出相手先のシェア

（単位：%）



（出所）国家統計局月報

(表 5)輸出総額に占める品目別のシェア

(単位: %)

	2012 年 1～4 月	2013 年 1～4 月	2014 年 1～4 月
鉱物資源・製品	92.0	87.6	84.1
宝石・貴金属	2.1	4.5	6.3
テキスタイル	3.5	3.8	5.6
皮革・毛皮原料	1.0	1.4	1.5
その他	1.4	2.7	2.5

(出所) 国家統計局月報

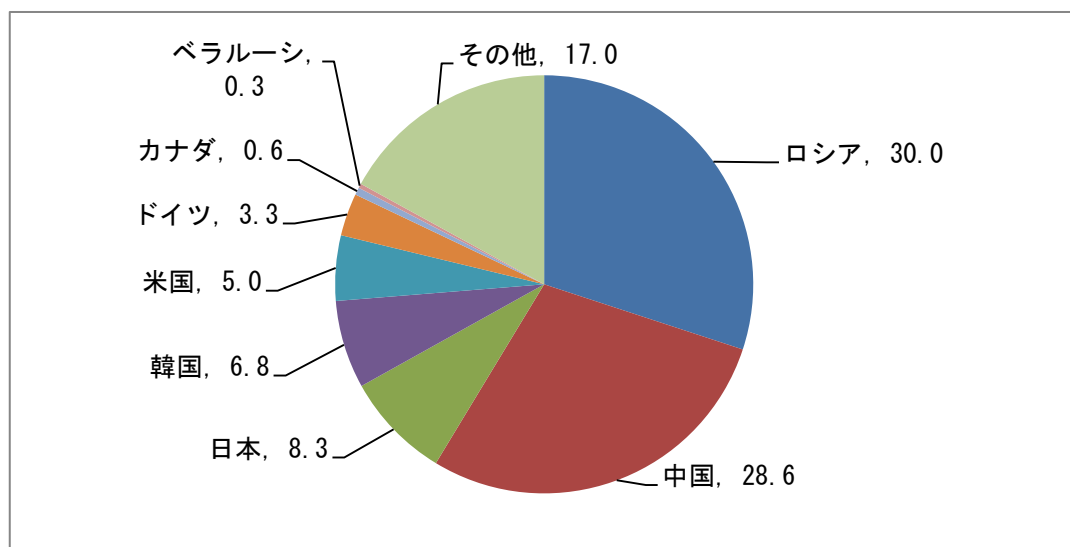
(表 6) 鉱物製品の輸出量(数量ベース)(単位: 1,000 トン、金はトン、原油は 1,000 バレル)

	2012 年 1～4 月	2013 年 1～4 月	2014 年 1～4 月
石炭	5,332.7	5,007.3	5,303.2
原油	1,007.7	1,420.6	2,094.0
鉄鉱石	1,977.5	1,933.1	1,581.0
粗銅	186.0	186.5	316.5
螢石	118.9	85.6	83.0
亜鉛鉱石	39.6	47.5	27.0
金(未精錬・半精錬)	0.6	1.3	2.5
その他	2.1	2.1	2.0

(出所) 国家統計局月報

(図 9) 輸入相手先のシェア

(単位: %)



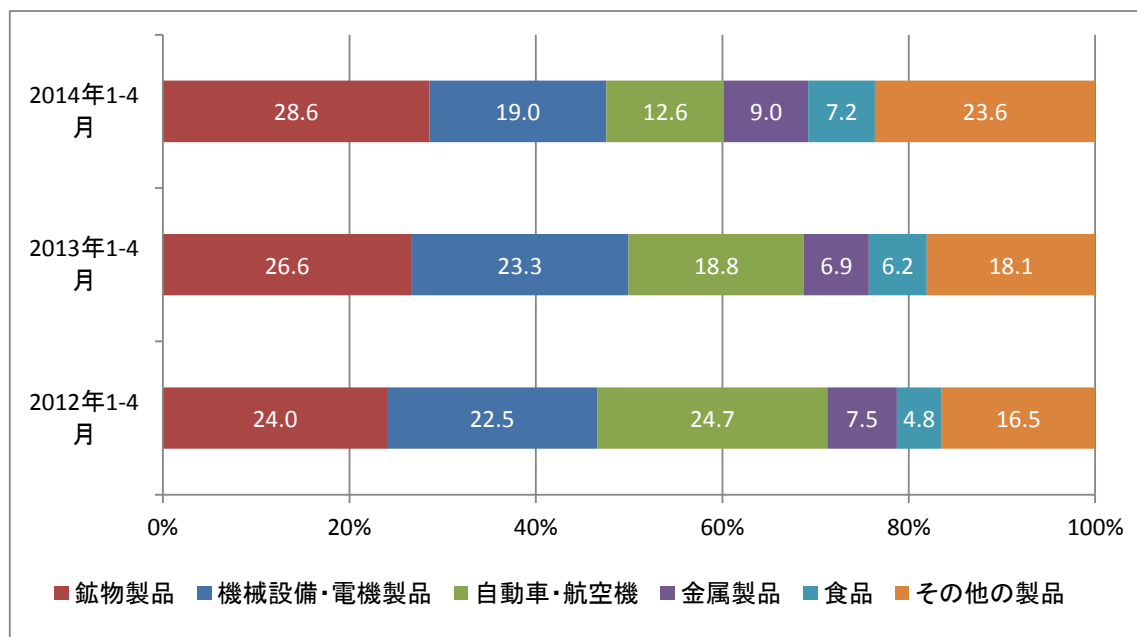
(出所) 国家統計局月報

輸入相手先は84カ国・地域にのぼる。輸入総額に占めるシェアは、ロシアが30.0%、中国が28.6%、日本が8.3%、韓国が6.8%、米国が5.0%、ドイツが3.3%、カナダが0.6%、ベラルーシが0.3%、その他が17.0%だった（図9参照）。

輸入総額に占める品目別のシェアは、鉱物製品が28.6%、機械設備・電機製品および同部品が19.0%、自動車・航空機および同部品が12.6%、金属製品が9.0%、食品が7.2%、その他の製品が23.6%だった。（図10参照）。

（図10）輸入総額に占める品目別のシェア

（単位：%）



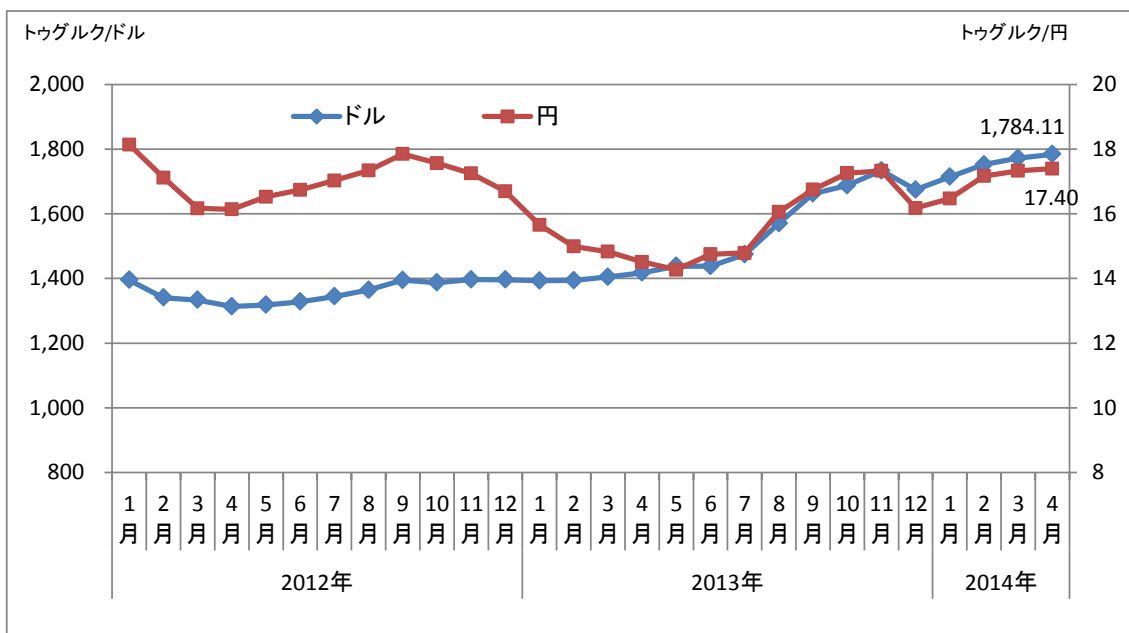
（出所）国家統計局月報

②【為替】対ドル、対円ともにトウグルク安

4月の期中平均レートは、対ドルは1,784 トウグルク、対円は17.4 トウグルクだった。前月に比べ、対ドル、対円ともにトウグルク安となった（図11参照）。

(図 11) 為替レートの推移

(左軸: 対ドル、右軸: 対円)



(出所) モンゴル銀行

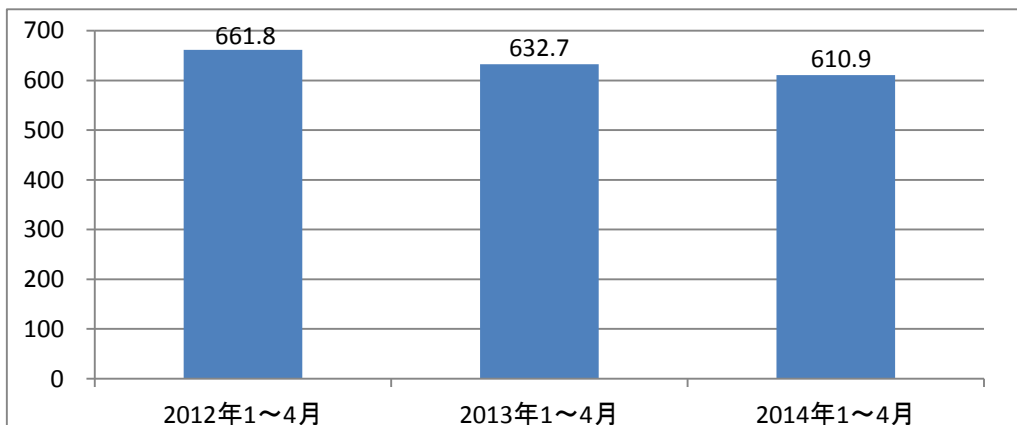
(3) 産業

①【輸送業】鉄道貨物輸送が前年同期比 3.4%減、航空貨物輸送が同 6.1%減

1～4 月の鉄道貨物輸送量は前年同期比 3.4%減の 610.9 万トン、航空貨物輸送は同 6.1%減の 1,081.7 トンだった。(図 12、13 参照)。

(図 12) 鉄道貨物輸送量

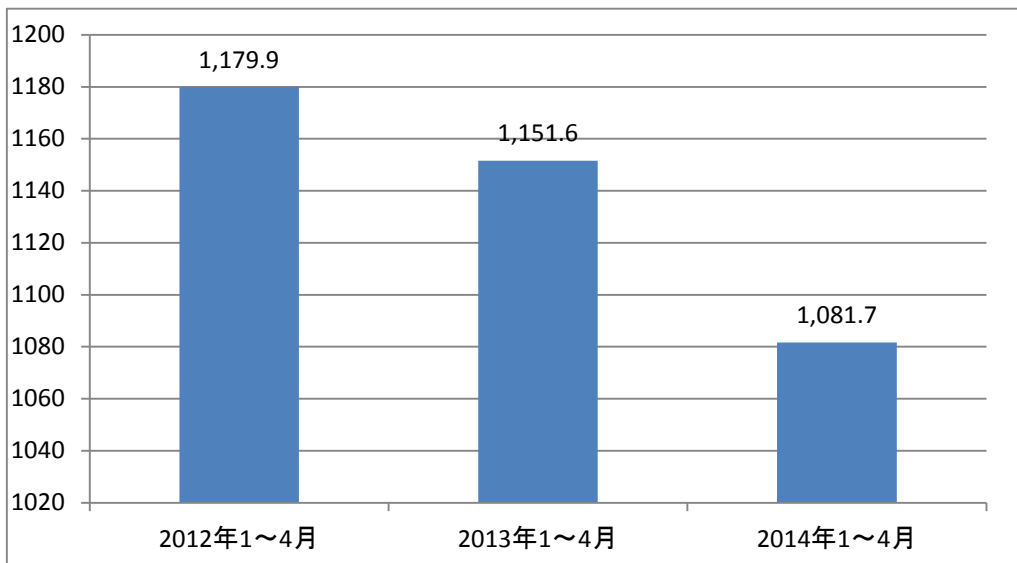
(単位: 万トン)



(出所) 国家統計局月報

(図 13) 航空貨物輸送量

(単位:トン)

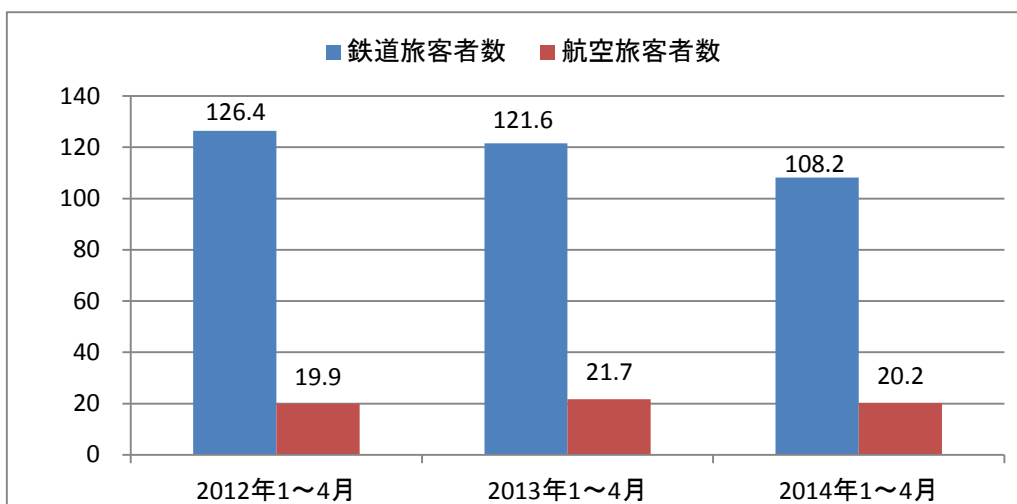


(出所) 国家統計局月報

同期間における鉄道旅客者数は同 11.0%減の延べ 108 万 2,200 人、航空旅客者数は同 6.9%減の延べ 20 万 2,300 人だった (図 14 参照)。

(図 14) 1 月の鉄道および航空旅客数

(単位:万人)



(出所) 国家統計局月報

②【ホテル・外食産業】ホテル業は前年同期比 22.4%増収、外食業は同 1.9%増収

2014 年 3 月末時点におけるホテル分野の企業数 (実際に営業している企業) は 271 社にのぼり、これらの企業の年間の総収入は前年比 22.4%増の 215 億 2,010 万トウグルクだった。

総収入をホテルのランク別にみると、一般ホテルが同 21.9%増の 106 億 5,310 万

トゥグルク、二つ星ホテルが同 49.8%増の 10 億 7,160 万トゥグルク、三つ星以上のホテルが同 20.5%増の 97 億 9,540 万トゥグルクだった（表 7 参照）。

（表 7）ホテル分野における収入および客室・宿泊者数の推移

項目	収入 (単位：億トゥグルク)			客室数 (単位：室)			宿泊客数 (単位：人)		
	2012 年 1-3 月	2013 年 1-3 月	2014 年 1-3 月	2012 年 1-3 月	2013 年 1-3 月	2014 年 1-3 月	2012 年 1-3 月	2013 年 1-3 月	2014 年 1-3 月
一般	54.1	87.4	106.5	3,402	3,744	3,403	62,369	77,828	62,712
二つ星	6.6	7.2	10.7	343	409	441	10,030	7,224	6,701
三つ星以上	65.5	81.3	98.0	1,374	1,520	1,476	27,972	25,668	21,267
計	126.2	175.9	215.2	5,119	5,673	5,320	100,371	110,720	91,680

（出所）国家統計局月報

1 室当たりの平均収入は前年比 30.5%増の 404 万 5,100 トゥグルクだった。ランク別では、一般ホテルが同 34.1%増の 313 万 500 トゥグルク、二つ星ホテルが同 38.9%増の 242 万 9,900 トゥグルク、三つ星以上のホテルが同 24.1%増の 663 万 6,400 トゥグルクだった（表 8 参照）。

（表 8）ホテル業における平均収入の推移

項目	1 室当たりの平均収入 (1,000 トゥグルク)			宿泊客 1 人当たりの平均収入 (1,000 トゥグルク)		
	2012 年 1-3 月	2013 年 1-3 月	2014 年 1-3 月	2012 年 1-3 月	2013 年 1-3 月	2014 年 1-3 月
一般	1,591.4	2,335.0	3,130.5	86.8	112.3	167.2
二つ星	1,932.4	1,748.9	2,429.9	66.1	99.0	159.9
三つ星以上	4,766.7	5,349.5	6,636.4	234.1	316.8	460.6
計	2,466.6	3,100.5	4,045.1	125.8	158.9	234.7

（出所）国家統計局月報

2014 年 3 月末時点における外食分野の企業数（実際に営業している企業）は 707 社にのぼり、これらの企業の年間における総収入は前年比 1.9%増の 341 億 8,240 万トゥグルクだった。このうち、レストランが 20.0%増の 128 億 6,960 万トゥグルク、喫茶店が 36.5%増の 36 億 6,140 万トゥグルク、バーが 45.5%増の 22 億 530 万トゥグルク、大衆食堂が 19.8%増の 42 億 9,240 万トゥグルク、宅配・ケータリングが 25.9%減の 111 億 5,370 万トゥグルクだった（表 9 参照）。

1 席当たりの平均収入は前年比 11.5%増の 67 万 9,600 トウグルクだった。このうち、レストランが 1.4%減の 87 万 3,500 トウグルク、喫茶店が 36.3%増の 57 万 4,500 トウグルク、バーが 51.9%増の 36 万 7,300 トウグルク、大衆食堂が 0.4%減の 63 万 3,700 トウグルクだった。

(表 9) 外食分野における収入および客席数の推移

項目	収入 (億トウグルク)			客席数 (席)			1 席当たりの平均収入 (1,000 トウグルク)		
	2012 年 1-3 月	2013 年 1-3 月	2014 年 1-3 月	2012 年 1-3 月	2013 年 1-3 月	2014 年 1-3 月	2012 年 1-3 月	2013 年 1-3 月	2014 年 1-3 月
レストラン	103.1	107.3	128.7	10,363	12,109	14,733	995.2	886.0	873.5
喫茶店	27.3	26.8	36.6	5,947	6,361	6,373	459.0	421.6	574.5
バー	12.1	15.2	22.1	5,327	6,269	6,004	226.5	241.8	367.3
大衆食堂	29.6	35.8	42.9	5,204	5,632	6,774	568.3	636.0	633.7
宅配・ケー タリング	178.6	150.5	111.5	n. a	n. a	n. a	n. a	n. a	n. a
計	350.7	335.6	341.8	26,841	30,371	33,884	641.0	609.4	679.6

(出所) 国家統計局月報

③【保険業】保険料収入は前年同期比 12.0%増

1～3 月期における保険業の企業数（実際に営業している企業）は 17 社であり、これらの企業の保険料収入は前年同期比 96.0%増の 234 億 5,930 万トウグルク、保険金支払いは 28.2%増の 82 億 6,070 万トウグルクだった。

(表 10) 保険加入状況および保険金支払額の推移

保険種別	保険加入件数(件)		保険料収入 (100 万トウグルク)		保険金支払い (100 万トウグルク)	
	2013 年 1～3 月	2014 年 1～3 月	2013 年 1～3 月	2014 年 1～3 月	2013 年 1～3 月	2014 年 1～3 月
生命保険	18,849	38,703	964.5	1,930.2	494.8	622.3
資産保険	55,962	117,790	8,238.6	14,224.9	2,758.1	2,923.2
損害賠償保険	77,447	162,610	2,443.8	5,592.2	2,939.2	3,532.5
金融保険	392	2,858	320.3	1,712.0	249.5	1,182.7
合計	152,650	321,961	11,967.2	23,459.3	6,441.6	8,260.7

(出所) 国家統計局月報

保険料収入の内訳は、生命保険が約 2 倍の 19 億 3,020 万トゥグルク、資産保険が 72.7%増の 142 億 2,490 万トゥグルク、損害賠償保険が約 2.3 倍の 55 億 9,220 万トゥグルク、金融保険が約 5.3 倍の 17 億 1,200 万トゥグルクだった（表 10 参照）。

保険金支払いの内訳は、生命保険が 25.8%増の 6 億 2,230 万トゥグルク、資産保険が 6.0%増の 29 億 2,320 万トゥグルク、損害賠償保険が 20.2%増の 35 億 3,250 万トゥグルク、金融保険が約 4.7 倍の 11 億 8,270 万トゥグルクだった。

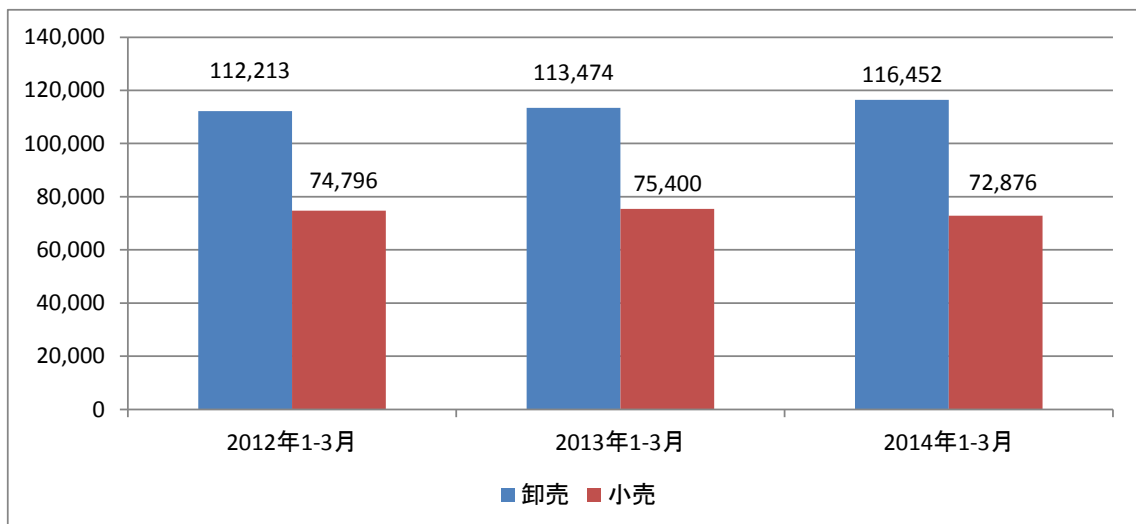
④【卸売・小売業】総売上高は前年同期比 0.2%増

2014 年 3 月末時点のモンゴルにおける企業数は 4 万 5,712 社にのぼり、このうち 46.8%にあたる 2 万 1,372 社が卸売・小売業である。

卸売・小売業の 2014 年 1～3 月における総売上高は前年比 0.2%増の 18 兆 9,329 億トゥグルクだった。このうち、卸売業は同 2.6%増の 11 兆 6,452 億トゥグルク、小売業は同 3.3%減の 7 兆 2,876 億トゥグルクだった（図 15 参照）。

（図 15）卸売・小売業の総売上高の推移

（単位：億トゥグルク）



（出所）国家統計局月報

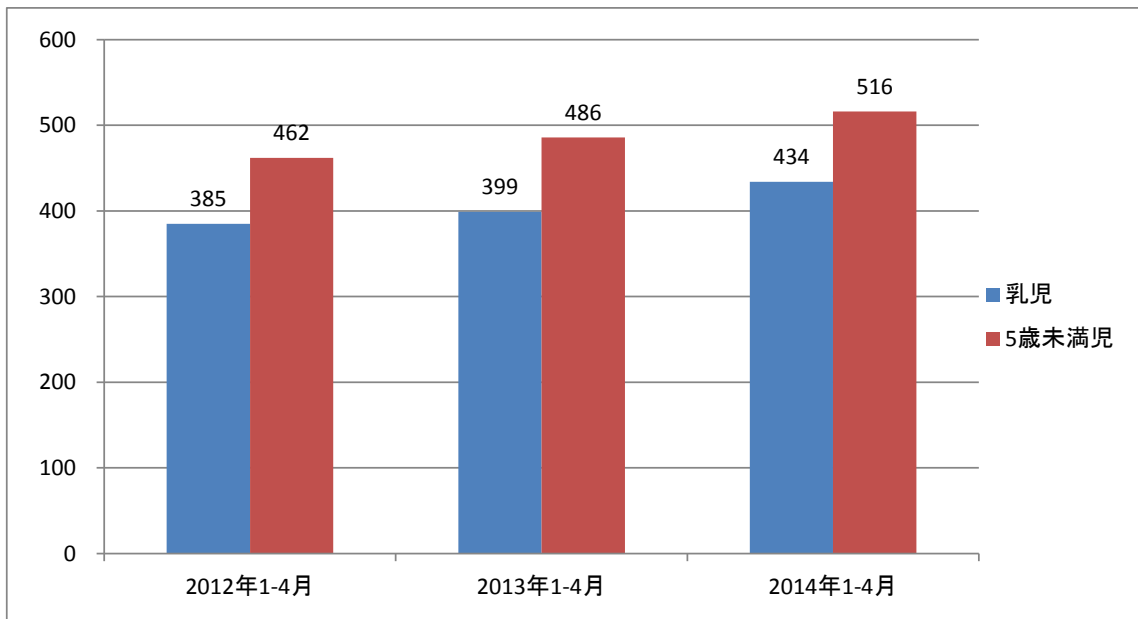
3. 社会動向

①【保健・医療】伝染病感染者数は前年同期比 22.6%減

1～4 月の出産件数は前年同期比 3.6%増の 26,488 件、実際に出生した人数は 3.8%増の 2万6,669 人だった。同期間における乳児死亡者数は前年同期比 8.8%増の 434 人、5 歳未満児の死亡者数は同 6.2%増の 516 人だった（図 16 参照）。

（図 16）乳児および 5 歳未満児の死亡件数

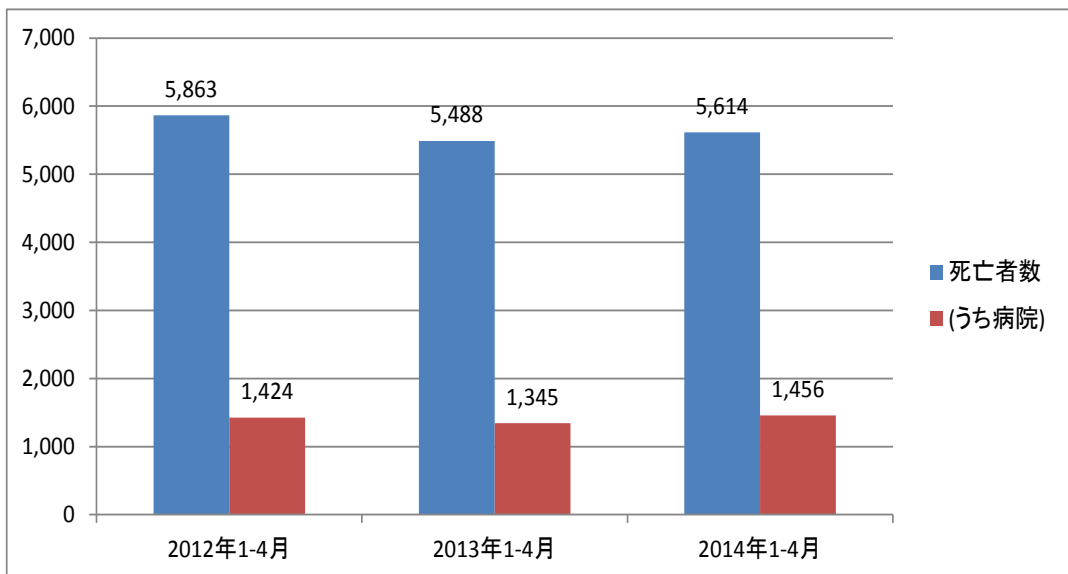
（単位：人）



（出所）国家統計局月報

（図 17）全国の死亡者数

（単位：人）



（出所）国家統計局月報

同期間における伝染病感染者数は、前年同期比 22.6%減の 11,187 人だった。このうち、梅毒が 12.0%増の 2,373 人、水痘（水ぼうそう）が 1.4%減の 2,079 人、結核が 6.8%増の 1,546 人、淋病が 13.2%減の 1,529 人、トリコモナス症が 5.5%減の 1,311 人、ウィルス性肝炎が 66.4%減の 428 人、赤痢（せきり）が 8.2%減の 343 人、流行性耳下腺炎（おたふく風邪）が 92.9%減の 230 人だった。

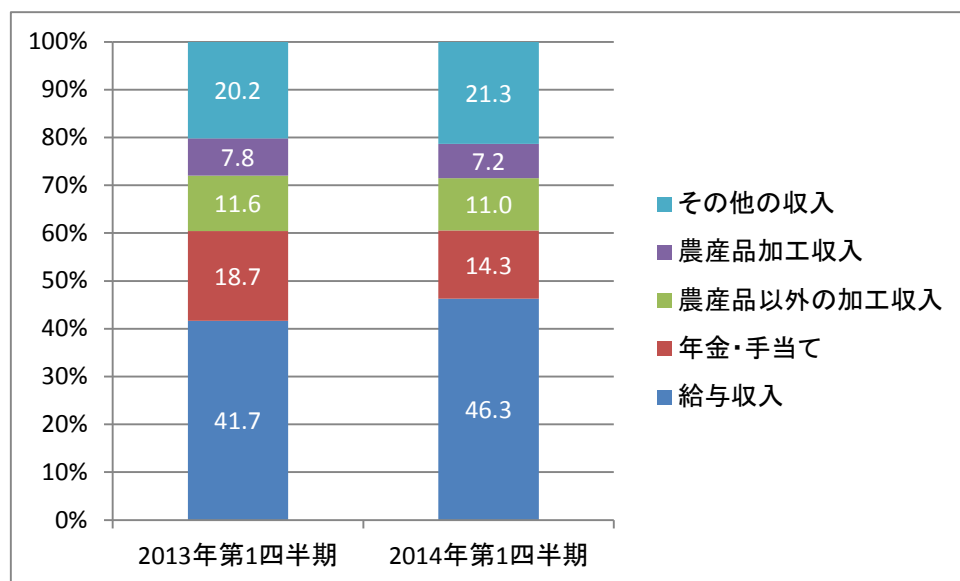
全国の死亡者総数は 2.3%増の 5,614 人だった。このうち、病院での死亡者数は 8.3%増の 1,456 人と全体の 25.9%を占めた（図 17 参照）。なお、同期間に病院で入院あるいは治療を受けた患者数は 5.3%増の 26 万 8,844 人であった。

②【世帯収支】1世帯当たりの平均収入は前年同期比 6.1%増

2014 年第 1 四半期の 1 世帯当たりの平均収入は前年同期比 6.1%増の 98 万 714 トウグルクだった。構成比をみると、給与収入が同 4.6 ポイント増の 46.3%、年金・手当てが同 4.5 ポイント減の 14.3%、農産品以外の加工収入が同 0.7 ポイント減の 11.0%、農産品加工収入が同 0.6 ポイント減の 7.2%、その他の収入が同 1.1 ポイント増の 21.3%だった（図 18 参照）。

（図 18）1 世帯当たりの月平均収入の構成比

（単位：％）

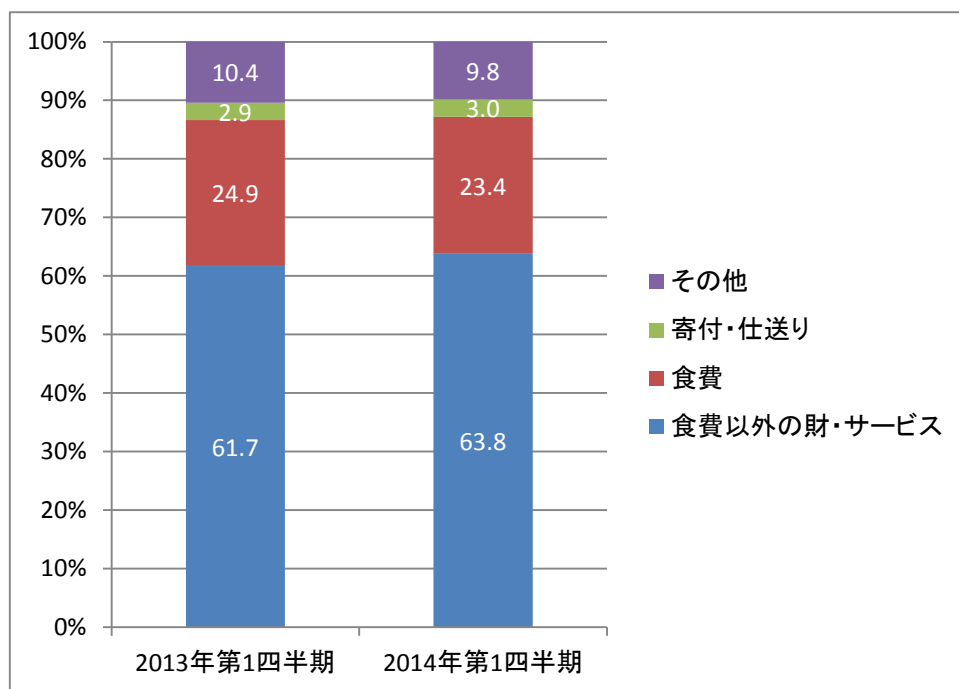


（出所）国家統計局月報

同時期の 1 世帯当たりの平均支出は前年同期比 15.4%増の 97 万 7,309 トウグルクだった。構成比をみると、食費以外の財・サービスが前年同期比 2.1 ポイント増の 63.8%、食費が同 1.5 ポイント減の 23.4%、寄付・仕送りが同 0.1 ポイント増の 3.0%、その他が同 0.6 ポイント減の 9.8%だった（図 19 参照）。

(図 19) 1世帯当たりの月平均支出の構成比

(単位: %)



(出所) 国家統計局月報

2014 年 7 月～10 月の予定

9 月 2～3 日	Invest Mongolia 2014 (会場未定、ウランバートル)
9 月 4～5 日	Discover Mongila 2014 (於・Children’ s Palace Ulaanbaatar ウランバートル)
9 月 4～6 日	Mining Mongolia 2014 Exhibition (於・Buyant Ukhaa Sports Palace ウランバートル)
9 月 4～6 日	Power & Renewable Energy Mongolia (於・Buyant Ukhaa Sports Palace ウランバートル)
9 月 4～6 日	Building & Construction Mongolia (於・Buyant Ukhaa Sports Palace ウランバートル)
9 月 10～12 日	27th Asian Trade Promotion Forum (ATPF) CEO meeting (於・Government House ウランバートル)
9 月 11～15 日	“Ulaanbaatar Partnership” 2014 International Trade fair (於・Misheel Expo ウランバートル)